

# 日本気象学会昭和55年秋季大会

## 大阪管区気象研究会

会期：昭和55年10月29日(水), 30日(木), 31日(金)

会場：京都教育文化センター(京都市左京区聖護院川原町4の13)

—京大病院正門前—

### 目次

大会行事予定表	681
会場と宿舍案内図	682
研究発表内容一覧表	683
シンポジウム内容	683
研究発表題目	684~691

### 大会行事予定

1. 会場：京都教育文化センター (TEL. 075-771-4221)  
第1会場 (北館1階1号室), 第2会場 (南館1階6号室),  
第3会場 (南館2階2号室), ホール (北館2階)
2. 会期：10月29日(水), 30日(木), 31日(金)
3. 行事

大会 (研究発表) (第1, 2, 3会場)	10月29日(水) 09:00~12:00
〃	〃 13:00~17:30
大会 (研究発表) (第1, 2, 3会場)	10月30日(木) 09:00~12:00
関西支部総会 (第1会場)	〃 13:00~14:00
理事長あいさつ, 日本気象学会奨励金贈呈式(ホール), シンポジウム(ホール)	〃 14:00~14:30 〃 14:45~17:00
懇親会 (南館3階, 亀, 鶴)	〃 17:30~19:00
大会 (研究発表) (第1, 2, 3会場)	10月31日(金) 09:00~12:00
大会 (研究発表) (第1, 2, 3会場)	〃 13:00~16:30

大会委員長 山元龍三郎

昭和55年秋季大会会場・宿舎案内図



交通案内 市バス 熊野神社、又は川端丸田町下車、京都駅より⑥、⑩甲。  
京都バス 川端丸田町下車

番号	名 称	番号	名 称	番号	名 称
1	くに荘 (国立共済連合会)	12	白河荘 (私立学校共済)	22	ホリデイ・イン京都
2	東山荘 (同上)	13	碧光園 (専売共済)	23	京都ホテル
3	鴨浜荘 (大蔵省共済)	14	花のいえ (公立学校共済)	24	都ホテル
4	平安寮 (地方職員共済)	15	農林年金会館 (農林漁業共済)	25	新都ホテル
5	京都堀川会館 (公立学校共済)	16	洛頂旅館 (民間)	26	京都ロイヤルホテル
6	共済会館 (市町村共済)	17	ホテル ニュー京都	27	京都タワーホテル
7	御車会館 (文部省共済)	18	ホテル ニュー京都 レディスホテル(女子専用)	28	ホテル・サンフラワー京都
8	平安房 (建設省共済)	19	旅館 丹後屋	29	京都トラベラーズイン (ビジネスホテル)
9	加茂川荘 (農林省共済)	20	祇園ホテル	30	京都イン楠 (ビジネスホテル)
10	洛翠荘 (郵政省共済)	21	京都ビジネスホテル	31	ペンション下賀茂
11	洛陽荘 (警察共済)				

## 昭和 55 年 秋 季 大 会

( ) : 講演番号, — — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
	09:00~12:00	熱帯気象 (101~116) —安成哲三—	境界層 (エクマン層) (201~215) —米谷俊彦—	大気化学・エーロゾル (301~315) —村山信彦—
10月 29日 (水)	13:00~17:30	大 雨 I (117~126) —田村信之— 大 雨 II (127~136) —石丸順一郎—	接地境界層 (I) (216~225) —光田 寧— 接地境界層 (II) (226~235) —安田延寿—	エーロゾル (316~328) —広野求和— 放 射 (329~337) —広野幹彦—
10月 30日 (木)	09:00~12:00	総観・中小規模現象 (137~151) —今田 克—	大気汚染 (236~250) —伊藤昭三—	雲 物 理 (338~352) —山下 晃—
	13:00~14:00	関西支部総会		
	14:00~14:30 14:45~17:00	理事長あいさつ, 日本気象学会奨励金贈呈式, シンポジウム (会場: ホール)		
10月 31日 (金)	09:00~12:00	力 学 (152~166) —廣田 勇—	局地循環 (251~265) —佐橋 謙—	応用気象 (353~366) —杉浦 茂—
	13:00~16:30	気 候 (167~182) —広瀬元孝—	局地循環 (266~272) —光本茂記— 数値モデル (273~280) —岩嶋樹也—	測 器 (367~383) —北林興二—

注) 大会参加費: 会員500円, 学生会員300円, 一般1,000円

## シンポジウム「豪雨について」

1. 日時 大会第2日 (30日)
2. 会場 ホール
3. 座長 中島 暢太郎 (京大防災研)
4. 話題提供者
  - ①集中豪雨について 二宮洗三 (気象庁・予報部)
  - ②集中豪雨の解析と予想 古橋重利・大江健夫 (大阪管区・技術部)
  - ③洪水流出について 高棹琢馬 (京大・工)

## 講演発表者へ

1. スライドのマウントに番号をつけること。
2. スライドの上下を揃え, 分かるようにすること。
3. スライドの枚数は10枚以内とすること。
4. 持ち時間(12分) を超過したときは中止していただくことがあります。
5. 今回は講演数が多いので, 講演時間厳守のこと。

## 研究発表題目

## 大会第1日(10月29日) 9時~12時

## 第1会場 熱帯 座長 安成哲三

101. 藤井盛澄(大阪電通大): 冬季, カリブ海上層に発生するジェット流の運動エネルギー収支解析
102. 木村竜治(東大海洋研): 1979年夏季の西太平洋熱帯海洋上の雲分布
103. 村上勝人・井上豊志郎(気研・台風)・加藤一靖(衛星センター): GMS赤外放射資料からみたFGGE期間中の大規模積雲活動
104. 田中実(筑波大・地球科学): MONEX年の夏季モンスーンについて
105. 増田耕一・新田勅(東大・理): モンスーン低気圧の客観解析(2)
106. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): インド洋モンスーン領域上空の30-50日周期の擾乱
107. 中村晃三・浅井富雄(東大海洋研): 気団変質過程の数値実験-貿易風に及ぼす潜熱解放の影響-
108. 山岬正紀(気研・台風): 軸対称台風と雲群の数値実験(IIの1)
109. 和田美鈴(気研): Arakawa-Schubertのパラメタリゼーションを用いた台風の数値実験(2)
110. 岡林俊雄(気象大学校): 台風の上層雲の曲率・走向と台風の進行方向との関係について
111. 村松照男(気研・台風): 偏西風帯での台風7916の構造の変化
112. 福井敬一(大阪管区): 台風7920号の衰弱期の鉛直構造
113. 小元敬男(大阪府大・農): 台風に伴うたつ巻の研究(1) 1979年9月4日三重県北部と名古屋市に発生したたつ巻(1)
114. 土高茂・松谷武司・古澤千尋(豊岡測): 1979年の台風20号に伴う北近畿の局地解析
115. 佐藤功(大阪管区): 台風7916号の後面に現われた気圧変動について
116. 石島英(琉大): 島上地上観測データによる台風地上風速場の推測

## 第2会場 境界層(エクマン層) 座長 米谷俊彦

201. 内田諭・伊藤芳樹・光田寧(京大・防災研): Sodarによる大気境界層内の風の遠隔測定

202. 西宮昌・赤井幸夫・小林博和(電力中研): 音波探査による下層大気の観測(I)
203. 赤井幸夫・西宮昌・千秋鋭夫(電力中研): ソーダによるエコー強度の解析
204. 林正康・横山長之(公害資源研): ソーダによる大気境界層の観測, その8
205. 森征洋(香川大・教育)・光田寧(京大防災研): 日本各地の風のベクトル平均値について
206. 横山長之・蒲生稔・山本晋・林正康(公害資源研): 大気境界層中の乱流スペクトル分布などの相似測
207. 蒲生稔・山本晋・横山長之・吉門洋(公害資源研): 海陸2境界面上に発達する内部境界層の飛行機観測(その10)
208. 蒲生稔(公害資源研): 混合層の季節変化
209. 山本晋・蒲生稔・横山長之(公害資源研): 混合層上部および上層安定層の乱流特性について
210. 吉川友章(気研・応用): 大気境界層内の気流(2)-内部境界層の数値シミュレーション
211. 西村浩一・佐々木浩・三神多加志・植松孝彦(気象協会・北海道): 北海道沿岸に発生する蒸気霧の観測
212. 沢井哲滋(気研・予報)・瀬戸敏良(釧路地台): 北海道太平洋側の夏の移流霧についての数値モデル(II)
213. 本多庸浩・藤田敏夫(気研・予報): 海上逆転層の動気候学的研究
214. 西本洋相(松山地台): 安芸灘における局地的晴霧の発現機構
215. 小路正弘(神戸市環境局): 山頂と自由大気の早朝の気温差

## 第3会場 大気化学・エアロゾル 座長 村山信彦

301. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・葛城幸雄(気研・地球化学): 中国水爆実験による $^{90}\text{Sr}$ 降下量の経年変化について
302. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・葛城幸雄・井上久幸(気研・地球化学): 東京および秋田における降水中の $^3\text{H}$ について

303. 杉村行勇・広瀬勝己(気研・地球化学):日本におけるフォールアウト・プルトニウム量とその河川流出量との関係について
304. 鶴田治雄(横浜公害研):対流圏における光化学反応(I)
305. 朝来野国彦・芳住邦雄・舟島正直・伊瀬洋昭(東京都公害研):燃焼によって生成されるエアロゾルについて-(1)
306. 小野 晃・大和政彦(名大水圏研):都市大気中の硫酸ミスト粒子-I-
307. 小野 晃・大和政彦(名大水圏研):酒石酸薄膜によるアンモニウム塩粒子の検出-I-
308. 村野健太郎・泉 克幸・福山 力・奥田典夫(国立公害研):大気中のエアロゾル測定(III)筑波(800308~800311)
309. 吉田裕一(北大・環境)・菊地勝弘(北大・理):地表面付近のエアロゾル濃度の垂直分布について
310. 北川信一郎・高橋忠司(埼玉大)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎方郎(気研)・中谷 茂(電総研)・関川公成・増田純夫(東理大・理)・望月定(室蘭工大)・斉藤克彦・児島 紘(東理大・理工)・角田智良(環境アセスメントシステム):大都市およびその周辺地域におけるエアロゾルの分布と変動の研究(第9報)
311. 孫野長治・遠藤辰雄・谷口 恭(北大・理)・村上正隆・吉田裕一(北大・環境):札幌市上空のエアロゾルの三次元的分布測定(その2)
312. 長屋勝博(名大水圏研):都市大気中のエアロゾル鉛直輸送の観測(I)-エアロゾルをトレーサーとした拡散係数の推定-
313. 木村 勉・村上正隆(北大・環境)・遠藤辰雄(北大・理):降水によるエアロゾルの除去作用に関する二点観測(その1)-雲タイプによる $SO_4^{2-}$ ,  $Cl^-$ の濃度変化-
314. 村上正隆・木村 勉・孫野長治(北大・環):降水によるエアロゾル除去作用の二点観測(その2)-主にWash outについて-
315. 成瀬 弘(気研・応用):都市と工業地域における雲核の濃度変化とその特性

## 大会第1日(10月29日)13時~17時30分

### 第1会場 大雨I 座長 田村 信之

117. 杉浦 茂・塚田 清(気研):豪雨の集中性について
118. 後町幸雄(京大防災研):鈴鹿山脈周辺の大雨の特性(5)
119. 古橋重利(大阪管区):東大阪で発生した局地的な大雨
120. 妹尾芳幸・渡部浩章(松江地台):1980年7月11日の大雨について
121. 杉井 徹(広島地台):1979年9月6日の広島市付近における大雨の事例解析
122. 白方常博・根山芳晴(松山地台):愛媛県内の豪雨の性状について
123. 門脇俊一郎(気研・予報):停滞性帯状エコーからの局地豪雨の観測
124. 堀内俊彦(岡山地台):岡山県における不安定性降雨の特性
125. 沢本弘志(高知地台):高知県中部で発達する降雨域の考察
126. 田中 浩・横山辰夫(名大水圏研)・長谷川千里(岐阜大・教育)・園部美尚(名古屋地台):1979

### 年梅雨期における中部地方の降雨帯の解析(I)

### 大雨II 座長 石丸 順一郎

127. 谷口光久・住田 巖・斉藤卓巳(広島地台):昭和54年6月29日の大雨解析(アメダス資料による)
128. 西川 保(和歌山地台):AMeDAS資料からみた和歌山県の短時間強雨の特性と昭和54年5月26日の集中豪雨と降ひょう(雷雨)時の現象について
129. 氏原啓文(室戸測):室戸岬レーダー観測と実測雨量の解析(第二報)
130. 久保雅和(大阪管区)・久保田利一(気象庁・予報):瀬戸内を東進するメソ擾乱について
131. 岡林昌弘(大阪管区):強雨時の地上発散
132. 上野達雄(大阪管区):地上風の発散場と降雨との関係
133. 明石秀平(函館海洋):エコーセルの追跡によるエコー内の発散収束場について
134. 武田尚之(大阪管区):昭和54年5月26日の降ひょうと地上発散分布

135. 二宮洗三(気象庁・電計)・猪川元興・秋山孝子(気研・予報)：長時間持続した Cb Cluster の観測的事実
136. 二宮洗三・巽 保夫(気象庁・電計)：長時間持続した Cb cluster のメソ格子モデル予報実験

### 第2会場 接地境界層Ⅰ 座長 光田 寧

216. 近藤純正・佐藤 威(東北大・理)：カルマン常数の決定(2)ーカップ風速計の回り過ぎ補正ー
217. 白澤邦男(北大・低温研)：流永野におよぼす風の応力測定Ⅳー Rough surface 上の乱流構造ー
218. 菊地時夫(高知大・理)：Saltation による運動量の鉛直輸送について
219. 内藤玄一(国立防災センター)・安田延寿(東北大・理)・戸矢時義(気研)：比湿変動の鉛直方向の相関
220. 近藤純正(東北大・理)：大気・海洋間のガス交換パラメータ化
221. 塚本 修・光田 寧(京大防災研)・藤谷徳之助(気研・物理)：熱帯海洋上における温度及び湿度変動の特性についてー MONEX ー
222. 藤谷徳之助(気研・物理)：熱帯海洋上における乱流輸送過程の研究(MONEX)(2)
223. 岩谷祥美(日大・生産工)・光田 寧・塚本 修(京大防災研)：多良間島で測定された強風の乱れの平均流方向の空間相関
224. 米谷俊彦(岡山大・農生研)：植物群落上の乱流特性について(VI)
225. 甲斐憲次(筑波大)：接地層における乱流エネルギー収支と乱流特性について

### 接地境界層Ⅱ 座長 安田 延 壽

226. 戸矢時義(気研・応用)・安田延壽(東北大・理)・内藤玄一(国立防災センター)：外洋上の観測塔における水蒸気変動量のスペクトル解析
227. 安田延壽(東北大・理)・戸矢時義(気研・応用)：不飽和陸地面からの蒸発散量と土壌の水分について(2)
228. 加藤真規子(お茶の水女子大・理)：バンドパス・シグマメーターによるエネルギースペクトルについて
229. 安枝伸子・根本 茂(お茶の水女子大・理)：階段状地形の後流(I)
230. 水野達樹・横山長之・山本 晋(公害資源研)：安定層中の乱流構造(2)

231. 北林興二・横山長之(公害資源研)：安定成層境界層の風洞実験
232. 横山長之・水野建樹・山本 晋(公害資源研)：晴夜安定層の乱流と波動の測定
233. 小林博和・駒林理一(電力中研)：風速頻度分布と風力発電ポテンシャル
234. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理)・伴野 登(気研・衛星)：大気下層の風の特性(その2)
235. 山下喜弘・内藤恵吉・伴野 登(気研・衛星)：筑波鉄塔の Wind profile について

### 第3会場 エーロゾル 座長 広 野 求 和

316. 南極昭和基地におけるエアロゾル粒子濃度の通年観測；伊藤朋之(気研・物理)
317. 伊藤朋之(気研・物理)・小野 晃(名大水圏研)・岩井邦中(信州大・教育)：南極大気中のエアロゾルの起源に関する研究(1)
318. 小出 孝(気研・応用)・伊藤朋之(気研・物理)・矢野 直・小林隆久(気研・応用)・桂川秀嗣(東邦大)・武内孝之(京大原子炉実験所)：南極昭和基地における大粒子エアロゾルの放射化分析(2)
319. 村山信彦・根本 修(気研・応用)・八十科 洋(衛星センター)・矢野 直(気研・応用)：黄砂の輸送とその粒子特性一序報
320. 梶原明仁(神戸海洋)：海上で採集した「黄砂」の粒子について
321. 藤原玄夫・柴田 隆・広野求和(九大・理)：シエラ・ネグラ火山噴火の成層圏エアロゾルへの影響
322. 柴田 隆・内海通弘・久々宮成助・藤原玄夫・広野求和(九大・理)：セントヘレンズ山大噴火による成層圏エアロゾルの増加
323. 内野 修・前田三男(九大・工)・柴田 隆・藤原玄夫・広野求和(九大・理)：セントヘレンズ山爆発後の成層圏エアロゾル層の三波長によるライダー観測結果
324. 岩坂泰信・林田佐智子(名大水圏研)：St. Helens 火山噴火に伴う成層圏エアロゾル層の変化(レーザーレーダ観測)
325. 林田佐智子・岩坂泰信(名大水圏研)：成層圏エアロゾルがオゾン濃度分布に与える影響(I)
326. 岩坂泰信(名大水圏研)：成層圏エアロゾル混合の季節変化(II)
327. 岡田菊夫・小林愛樹智・原田奈遠美・武田喬男

- (名大水圏研)：大気中のエアロゾルによる光散乱係数の変動(I)
328. 柴崎和夫・小川利紘(東大・理)：大気NO<sub>2</sub>全量の分光測定
- 放射** 座長 広野幹彦
329. 小澤博(都立府中西高)：回転楕円体をした水滴の分光現象(II)
330. 高野精秀(東北大・理)・浅野正二(気研・高物)：永晶による光の回折
331. 佐藤隆夫(長崎大)：大気中の第三次散乱光の計算結果(1)
332. 佐藤隆夫(長崎大)：大気中の第三次散乱光の計算結果(2)
333. 近藤純正・内山明博・佐藤威(東北大・理)：Yamamotoの放射図の窓領域の補正(2)(surface downward fluxについて)
334. 山内恭・和田誠・前晋爾・川口貞男(極地研)：POLEX-South南極みずほ基地における放射観測1.観測システム
335. 山内恭・川口貞男(極地研)：POLEX-South南極みずほ基地における放射観測2.地表面における放射収支一速報
336. 廣野幹彦(新潟大・工)：非ローレンツshapeをもつ大気ガスの吸収特性
337. 村格久史・広田道夫・牧野行雄(気研・高物)：成層圏汚染—オゾン層の破壊—に関する研究(4)

## 大会第2日(10月30日) 9時~12時

- 第1会場 総観・中小規模現象** 座長 今田克
137. 吉澤宣之・田中浩(名大水圏研)：熱対流性渦のcoreの脈動現象
138. 石川裕彦・光田寧(京大防災研)：渦流の流体実験・序報
139. 椎野純一(気研・台風)：積雲の数値実験—過冷却雲と凍結雲の発達と比較—
140. 三浦勇一(東理大)・浅井富雄(東大海洋研)：鉛直シアのある風系中のロール状対流雲の解析
141. 斎藤直輔(上智大学)：高気圧南縁の波動について(関東地方の北高型の天気)
142. 竹内衛夫・内山徳栄(気研・予報)：上層のうず度極大域に伴う極気団中の低気圧形成について
143. 穂積邦彦・遠藤辰雄・谷口恭・孫野長治(北大・理)：日本海収束帯の垂直構造とその移動に伴う降雪パターンの移動
144. 穂積邦彦・遠藤辰雄・孫野長治(北大・理)：新潟県局地豪雨の量的6時間予報の試み
145. 小堀竜一(舞鶴海洋)：鳥取県の大雪について
146. 菊田一郎(松江地台)：降雪の量的予報
147. 小沢正・内山良子(気研・予報)：降雪量の統計的予報について
148. 秋山敏夫(潮岬測)：和歌山県南部の天気悪化の確率について
149. 青木孝(気研・予報)：台風経路の統計的予報(II)
150. 饒村曜(気象庁・予報)：断定予報と確率予報
151. 篠宮弘(高松地台)：四国地方における局地性豪雨のポテンシャル予報
- 第2会場 接地境界層・大気汚染** 座長 伊藤昭三
236. 和田誠・山内恭・前晋爾(極地研)：南極みずほ基地における境界層観測(I)—システムの概要—
237. 和田誠・山内恭・前晋爾(極地研)：南極みずほ基地における境界層観測(II)—カタバ風の季節による変化—
238. 田平誠(愛知教育大・地学)：インフラソニック波観測のためのマルチパイプ・ラインマイクロホンについて
239. 田平誠(愛知教育大・地学)：桜島の爆発によって発生するインフラソニック波について
240. 山下邦博(消防研)・清水嘉夫・富田賢治(日本気象協会)：火災上昇気流の三次元流速の観測
241. 山下邦博(消防研)・清水嘉夫・富田賢治(日本気象協会)：火災上昇気流の乱流構造
242. 福井敏雄(大阪管区)：持続的な光化学スモッグの発生機構について
243. 太田盛三(高松地台)：広島上空の早朝推算低層風と広島県当日オキシダント濃度との統計的関係
244. 藤田慎一・千秋鋭夫(電力中研)：都市地域における大気汚染質の降雨による洗浄作用について
245. 安達隆史(日本気象協会・研)：大気汚染シミュ

- レーションを目的とした場合に、2つの風配図を定量的に比較する方法
246. 藤田敏夫(気研・予報):高濃度オキシダント気塊の移動について(2)
247. 鶴田治雄・前田裕行・太田正雄(横浜公害研):相模湾上における大気汚染物質の輸送及び変質過程に関する観測(第3次調査)
248. 伊藤昭三・松崎純枝(阪府大・工):安定に成層した海洋上の大気中に発生源をもつ拡散
249. 水野建樹・横山長之(公害資源研)・安楽岡頭(数理計画):大気境界層中での煙の鉛直拡散幅(第四報)
250. 石崎健二(北大・工):煙突から出た煙塊の曲線運動について
- 地上で観測される降水の型(雨・雪)と気象要素との関係(II)
344. 岩井邦中(信州大・教育):昭和基地で観測された小雨滴について
345. 中村健治・阿波加純・吉村和幸(電波研):ドップラレーダによる雨滴粒径分布の推定—その2—
346. 藤原美幸・市村市太郎・柳瀬利子(気研・台風):層積雲の微物理学的構造について(II)
347. 石坂 隆・小野 晃(名大水圏研):汚染物質の雲粒の形成に及ぼす影響 I. 雲粒の観測
348. 武田喬男・原田奈遠美(名大水圏研):エアロゾルが shallow cumulus cloud の微細構造に及ぼす効果(1) Lagrange 流の計算を考慮した積雲モデル
349. 武田喬男・原田奈遠美・夏木尚平(名大水圏研):エアロゾルが shallow cumulus cloud の微細構造に及ぼす効果(2)エアロゾルの粒径分布が雲粒粒径分布に及ぼす効果
350. 谷口 恭・遠藤辰雄・孫野長治(北大・理):雷雲中における鉛直方向の鏡像関係について
351. 谷口 恭・遠藤辰雄・穂積邦彦・孫野長治(北大・理):冬の雷雲の電氣的構造について(その6)
352. 舟木数樹・北川信一郎(埼玉大・工)・仲野 貴・竹内利雄(名大空電研):北陸冬雷の多点観測について
- 第3会場 雲物理 座長 山下 晃
338. 古川義純(北大低温研):多結晶雪結晶の形態とその生成
339. 権田武彦・小池哲也(東理大・理工): $-30^{\circ}\text{C}$  ~  $-40^{\circ}\text{C}$  で成長する単結晶永晶の成長機構(1)
340. 山下 晃・成重和子・竹内健司(大教大):16mm 映画“雪の結晶”の解析
341. 播磨屋敏生(北大・理):霰形成機構の地域性(その2)
342. 松尾敬世・佐粧純男(気研・物理):地上で観測される降水の型(雨・雪)と気象要素との関係(I)
343. 松尾敬世(気研・物理)・佐藤靖裕(埼玉大・理):

### 大会第3日(10月31日) 13時~16時30分

- 第1会場 力学 座長 廣田 勇
152. 神沢 博(京大・理):Eliassen-Palm フラックスによる突然昇温時の波の記述
153. 宮原三郎(九大・理):太陽-日潮汐振動と下部熱圏平均流加速(II)
154. 重久陽亮(気象庁・電計):東西波数0に対応する Laplace's tidal equation の固有解の直交化
155. 田中 浩・山中大学(名大水圏研):中層大気の波動と乱流(第1報)一慣性内部重力波の鉛直内部構造
156. 高橋正明・瓜生道也(九大・理):Zonal 方向に伝播する barotropic Rossby 波束に伴う平均運動
157. 三村和男・廣田 勇(京大・理):WKB 近似による低緯度 Rossby-Gravity Wave へのアプローチ
158. 守田 治(九大・理):赤道流の不安定性(二層流体モデル)
159. 瓜生道也・中原一成(九大・理):赤道流におけるバロトロピック不安定について
160. 余田成男(京大・理):帯状流一傾圧不安定波相互作用モデルにおけるエネルギーの周期的変動について
161. 吉崎正憲(東大海洋研):有限振幅傾圧不安定波の安定波数域について(I)
162. 吉崎正憲(東大海洋研):有限振幅傾圧不安定波数域について(II)
163. 新野 宏(東大・海洋研):回転系における水平



シア流の安定性(その1)一弱非線形理論一

164. 和方吉信(九大・理)：非線型ロスビー波  
 165. 野上 豊(京大・理)：二層連続成層流体中の惑星孤立波(II)  
 166. 木村竜治・三沢信彦(東大海洋研)：地表から大気への角運動量ポンピング(第3報)：一角運動量蓄積の流体実験(つづき)一

## 第2会場 局地循環 座長 佐橋 謙

251. 藤谷龍太郎・安藤 博(米子測)：美保湾の海風前線について  
 252. 松井晋二(奈良地台)：奈良盆地の風について  
 253. 池淵昶允(室戸岬測)・富田正夫・宮崎晴夫(京都地台)：京都盆地の風について  
 254. 椎木 基・岡野昭正(岡山地台)：岡山平野の海風について  
 255. 中島幾治・出羽春昌・村田常吉・松村 哲・吉川清志・黒岩康夫・北出光良(高知地台)：高知空港周辺の高陸風について  
 256. 吉門 洋・蒲生 稔・山本 晋・林 正康・近藤裕昭(公害資源研)：新潟平野の海風の観測  
 257. 林 泰一・光田 寧(京大防災研)：突風前線の観測  
 258. 佐々木 浩・植松孝彦・西村浩一・三神多加志(気象協会・北海道本部)：低山岳地域における地上風の観測  
 259. 原田 朗(気研・応用)：小規模現象におけるエクマン・バンピングの解析  
 260. 藤部文昭(東大・海洋研)：海陸風の性質について(1)一般風との関係  
 261. 藤部文昭(東大海洋研)：海陸風の性質について(2)季節的特性  
 262. 宮田賢二(広島女子大)・渡部浩章(松江地台)・瀬戸信也・大原真由美(広島県環境センター)：海陸風の広域的特性に関する統計的解析(II)一平均とばらつき・交替時刻一  
 263. 宮田賢二(広島女子大)・渡部浩章(松江地台)・瀬戸信也・大原真由美(広島県環境センター)：

海陸風の広域的特性に関する統計的解析(III)

- 一現象にかかわる要因との関係一  
 264. 枝川尚資・中島暢太郎(京大防災研)：琵琶湖の湖陸風(1)  
 265. 加藤史之(北大・環境・院)・高橋英紀(北大・環境)：洞爺湖の湖陸風(II)

## 第3会場 応用・その他 座長 杉浦 茂

353. 上野武夫(東京理大・応用数学)：台風域内の気圧および風の数値計算  
 354. 藤田和正(浜田測)：浜田沖の波浪について  
 355. 城尾泰彦(彦根地台)：滋賀県の霜予想について  
 356. 藤原滋水(函館海洋)外4名：Seasatによる台風周辺の海上風観測(第1報)  
 357. 常陸 章(徳島地台)：異常高潮位に対する現業処置のための調査  
 358. 河野俊雄(徳島地台)：小松島港における波浪調査  
 359. 塩田輝也(高松地台)：瀬戸内の霧とその予想法について  
 360. 藤田広行・川合謙吉・小堀幸之進・船本政勝(大阪航測)・近藤信一(神戸海洋)：本邦におけるCAT発生の統計結果について(20,000 FT以上)  
 361. 鈴木啓助(北大・環境・院)：融雪による積雪の化学的性質の変化  
 362. 篠原吉雄(神戸海洋)：室戸岬周辺の海上風について  
 363. 堀口善一(舞鶴海洋)：上層資料による海上風の予想  
 364. 杉浦 茂・塚田 清(気研)：台風に伴う降雨のポテンシャルについて  
 365. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋)・佐藤洋子(九大・工)：震生虹による対流圏の長波の解析  
 366. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋)・斉藤 巖(三井三池鉱)・佐藤洋子(九大・工)：硫黄噴気量の永年変化と夏の霖雨

## 大会第3日(10月31日)13時~16時30分

### 第1会場 気候 座長 広瀬 元 孝

167. 斎藤 昭：北アメリカおよび中央アメリカの200 mb 面における冬季の風向別気温の研究

168. 大井正一(埼玉大)：成層圏天気図の解析(32)38・1 寒冬について  
 169. 戸松喜一(気研・予報)：定常波・非定常波のエ

- エネルギー解析(2)
170. 荒井 康(気象庁・長期): 極うず指数と東西指数
171. 広瀬元孝(気研・予報): 北半球500MB 高度場の半月単位1か月予報
172. 千葉 長・矢島栄三(気研・予報): 月平均気温, 気圧の半年偏差分布の解析
173. 金沢義雄(広島地台): 北半球循環と中国地方の梅雨(7月の雨)の特性
174. 萩原武士(高松地台): 旬平均図からみた梅雨期の異常天候
175. 藤田敏夫(気研・予報): 1980年冷夏の北半球気温分布の特徴について
176. 西川 敦・浅井富雄(東大海洋研): 東経137度線にそった上部海洋の熱容量の季節変動
177. 富田正夫(京都地台): 京都の気温・降水量の経年変化について
178. 星合 誠(愛知学院大): 最近100年間の北洋球地上気温変動推算結果の検討(第2報)
179. 須田滝雄(岐阜大・農): 気候変化の2つの主因と2つの副因—1980年の日本冷夏の主因は火山噴火—
180. 森 征洋(香川大・教育)・片山恵子(南港緑小): 年輪のスペクトル解析: 太陽黒点の11年周期との関係について
181. 高橋浩一郎(早大): 気候変動と社会変動
182. 小元敬男・鱧谷 憲(大阪府大・農): 気候データに含まれる都市気候の影響度の評価の試み(4) 全国主要都市の平均気温の都市効果について
- 第2会場 局地循環 座長 光本茂記**
266. 桜井兼市(北教大・旭川)・藤田 彰(旭川市公害課): 冬期旭川での気温の水平・垂直分布(II)
267. 田宮兵衛(気研・予報): 小集落の夜間ヒートアイランド
268. 渡辺 明(福島大): 猪苗代湖周辺地域の局地循環の客観解析について
269. 米谷恒春(国立防災センター): ヒートアイランドによる積雲の形成, 数値実験
270. 萬納寺信崇(東大・理): 山谷風の数値実験~その2~
271. 石島 英(琉大)・M. ESTOQUE (マイアミ大): 円錐地形による気流擾乱に関する数値実験

272. 佐橋 謙(岡山大・教育): 海風前線についての数値実験

**数値モデル 座長 岩嶋樹也**

273. 黄 栄輝・岸保勘三郎(東大・理): 中緯度におけるモデルの大気地形と定常的な熱源の強制に対する応答
274. 時岡達志・山崎孝治・谷貝 勇・鬼頭昭雄(気研・予報) 全球2層大気大循環モデル
275. 時岡達志・山崎孝治・谷貝 勇・鬼頭昭雄(気研・予報) 1/6セクターMRI・GCMについて
276. 遠峰菊郎(防衛大学校): 山を考慮したイニシャリゼーションについて
277. 遠峰菊郎(防衛大学校):  $\sigma$  歴標系における気圧傾度力の計算法
278. 巽 保夫(気象庁・電計): 経済的なイクスプリシットスキームと $\sigma$ 系プリミティブモデルへの応用
279. 猪川元興(気研・予報): 「浅い対流」の方程式系においてエネルギーを保存する invariant form の計算スキームとそのテスト
280. 猪川元興(気研・予報): 大きな系統的誤差を含む地上風データの統計的客観解析法

**第3会場 測器 座長 北林興二**

367. 気圏環境計測グループ(佐橋 謙 岡山大・教育): 岡山大学環境計測共同利用施設における気象観測
368. 上田 博・八木鶴平(国立防災センター): ファンビーム・ドップラーレーダーにより得られたスペクトルについての二, 三の考察(水平風測定の問題として)
369. 阿部勝宏(気象衛星センタ): 静止気象衛星“ひまわり” 赤外放射データによる旬平均海面水温の精度
370. 忠鉢 繁・竹内 旦(高層気象台): 高層気象観測用ゴム気球の上昇限界について(桑名による理論式との比較)
371. 原見敬二(関西支部): 強風用指示雨量計の試作について
372. 西山 宏・花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 新設された大型風洞装置について
373. 平木 哲(気象庁・電計): 高層観測データの垂直チェック
374. 土屋 清・石田 中(宇宙開発事業団): 地球観

- 測衛星搭載センサーの感度特性
375. 西山 宏・花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理)：回転実験装置について
376. 高橋延男(気研・衛星)：開放型小型風洞について
377. 田端 功・高橋克巳・穂田 巖・岡田芳隆・内藤恵吉(気研)：高層観測用高出力ライダー装置について
378. 青柳二郎(気研・衛星)・飯島純男(東海大)：ドップラレーダによる水平風の測定
379. 青柳二郎・松浦和夫(気研・衛星)：気象研究所大型気象レーダについて
380. 井沢龍夫・中沢哲夫(気研・台風)：衛星資料解析装置(ASDAS)を用いた画像処理
381. 笹野泰弘・広原泰英\*・清水 浩・竹内延夫(国立公害研・筑波大\*)：スキャンニングレーザーレーダーで観測されるエアロゾル分布パターンの歪み補正について
382. 田中 浩・山中大学・小野 晃(名大水圏研)：成層圏大気球観測に用いる電離式微風計(I)
383. 真木太一・磯部誠之・谷 信輝(農技研・気象科)：農業技術研究所に設置された風洞施設について

### 秋季大会の講演持ち時間の短縮のお知らせと講演者へのお願い

10月29～31日の3日間京都市で開かれる日本気象学会秋季大会への講演申込み数が245編の多数に達しました。講演数が多いことは学会活動の盛んな証左として喜ばしいことですが、定められた時間内に消化するためにはどうしても1题目的持ち時間を12分に短縮するとともに、下記のような不合理的な制限をせざるを得なくなりました。講演者は下記の項目を順守して効果的な発表を行なうよう予め準備をお願いします。

1. 1题目的持ち時間は12分とする。10分以内で講演を終了し残り時間を質疑討論に当てる。
2. 12分を超過した場合には座長が講演の打ち切りを命じ、座長の指示に従わずなお講演を続ける者にはスライドの映写の中止など講演発表が実質的に行なえないよ

うにする場合もある。

3. スライドの枚数は10枚までとし、それ以上は受け付けない。

なお、今回はやむを得ず突然このような方法を取りましたが、講演数が年々増加してきている現状に鑑み、同じ題で「その1」、「その2」としたものや、類似した題目で2件出された場合には1題目にして頂くことも次回から採用せざるを得ないと考えています。さらに、大会日数、セッション数の増加など抜本的な改善策については理事会等で論議する予定ですので、御意見やアイデアのある方は講演企画委員会へお知らせ下さい。

(講演企画委員会)

### 日本学術会議会員選挙の立候補者の推薦についての報告

日本学術会議第12期会員選挙への立候補に当り、下記2名の会員が気象学会の推薦を希望するむね申し出がありましたので、さきにお知らせした手続きに従い、常任理事会として推薦を決定しましたので報告します。

記

増 田 善 信  
猿 橋 勝 子 (申し出順)

(日本気象学会常任理事会)